

ける種牛造成の規範となるような系統造成を目指し、本年度から全国の和牛育種組合から10組合、計11系統を選定して系統再構築事業を展開しており、この取り組みが多様性維持に貢献できることを期待している。

登録協会では、半世紀にわたり5年を区切って、新たな和牛像を確認するため、開催テーマを掲げ、登録事業を通じた日常の育種改良や飼養技術の研鑽を互いに競う場として全国和牛能力共進会を開催してきた。平成24年度

には長崎県において「和牛維新！地域で伸ばそう生産力 織こう豊かな食文化」をテーマに開催される。種牛性に代表される繁殖能力や飼い易さ、さらなる和牛肉の美味しさの追求、それら育種の源泉となる遺伝的な多様性の維持拡大が盛り込まれたテーマであり、新たな改良増殖目標にも見合う内容になっている。和牛の育種改良の一里塚であり、成功に向かって関係各位のご協力をお願いしたい。

(むかい ふみお・(社)全国和牛登録協会会長理事)

## トピックス

### 食育とTOKYO Xのコラボ対談 開催 ～HATTORI食育クラブの平成22年度セミナーにて～

服部栄養専門学校校長の服部幸應氏が主宰する「HATTORI食育クラブ」は、昨年12月15日に、とんかつ「まい泉」青山本店（東京都渋谷区）で平成22年度第4回セミナーを開催。クラブの会員である銘柄豚TOKYO Xの流通販売協議会「TOKYO X-Association」の植村光一郎会長を招いて、服部氏と対談した。

対談のテーマは「食育に基づいた、TOKYO Xのアニマルウェルフェア(AW)とフードチェーン」で、TOKYO X-Associationが生産者・消費者双方へ働きかけている連携づくりの取り組みなどを中心に活発な議論が行われた。

植村氏は「生産者と消費者の利害が異なっていては食品産業・農業の発展は見込めない。利害を一致させるためには、消費者に対する情報提示や食育活動をより積極的に行うべき」と話し、服部氏も「私は常々“食は文化”ということを提唱してきた。その文化造成には植村氏の言う活動が重要だと思う」と応じた。その上で植村氏は「これからは生産者と消費者とで相乗効果生み出していく必要がある」と述べ、生産から流通、小売、消費までそれが主体性をもったアグリフードチェーン構築の必要性を訴えていた。また、



議論を交わす服部氏（右）と植村氏

AWについては、「AWの理念などを説明するのは難しいが、食育と関連付けて話すと非常に説明がしやすい」と植村氏。

最後に服部氏が「農業や食品製造業など食品産業全体を持続可能（サステイナブル）の設計を目指し、その一環として消費者に対しては食べ物に対するリスペクトを意識させていく。こういった活動を一つ一つ実践していくことで、TPPなどの情勢に対抗でき、生産者の自信につながる体制が構築されていくのではないか」と締めくくった。

HATTORI食育クラブは、飲食店や食品企業などの食品関連企業などを中心に2003年に設立。食育を通じた人間教育と食業界の発展を目指し、現在は223社が加盟している。